菜の花と遊ぶ親子の笑顔よし　　　　　 　岡　恵美子

　　　　　斐川野はいま春真っ盛り

晴れし日は縁の日向に一人いる　　　　 山﨑　幸代

自由とさびしさ表と裏に

竹林に猪の匂いの残りいて　　　　　 　　　原　敬子

　　　　　掘られし穴のみ筍見えず

満開の桜を巡る百人の　　　　　　 　　　岩本ひろ子

　　　　　「桜ウオーク」に心踊りて

四月の短歌

**12月の俳句(兼題・虎落笛)**

冬うらら抱きし孫は母となり　　　　　　　絹　子

夜半を吹く築地の松の虎落笛

湖岸に寄りて賑はし鴨の陣　　　　　　　　文　子

籠り居てひときは強し虎落笛

北山の銀杏黄葉はみ寺らし　　　　　　　　鶴　子

ラジオから世界の天気虎落笛

はち切れる水のしぶきや新大根　　　　　 幸　子

大樹はも哀しみのある虎落笛

加勢して晩生白菜縛り置く　　　　　　　　光　江

一人ずつ灯す家族や虎落笛

**12月の俳句(兼題・虎落笛)**